

機構長挨拶文

東北大学学位プログラム推進機構長として、2018年度のリーディングプログラム成果発表会の開催にあたり、一言挨拶を申し上げます。

本学学位プログラム推進機構は、リーディングプログラム部門、国際共同大学院プログラム部門、産学共創大学院プログラム部門、学際高等研究教育院の3部門、1院で構成されており、各研究科・専攻で実践されている専門分野の教育を核としつつも、新たな学位プログラムを通じて、本学大学院教育改革の先導を担ってきております。

その中で、リーディングプログラムでは、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え、広く産・学・官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて世界に通用する質の保証された学位プログラムを展開し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業として構築されております。

本成果発表会は、リーディングプログラム部門の安全安心プログラム及び物質プログラムの学生が、プログラムにおける学修の成果をそれぞれ発表し、またワークショップにより学生間の親睦を深めることで、互いに切磋琢磨し、より一層高い意欲を持ってプログラムに参加してもらうことを目的とし開催するもので、今年度で、3回目となります。

また、「リーディングプログラムにおける優秀学生表彰制度」は、リーディングプログラムの人材育成目的にかない、かつ学業成績が優秀な学

生をリーディングプログラム部門として表彰するもので、昨年まで、両プログラム合わせて4名が受賞しております。

今年度は、グローバル安全学トップリーダー育成プログラムから小川 剛史さん、マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラムから菅野 雅博さんが受賞されました。お二人からは、この後、各プログラムから選出された4名の発表者とともに、リーディングプログラムの活動を通して学修したことを発表してもらいますので、皆さんのこれからの活動の参考になることと思います。

午後のワークショップでは、今年度入学した2つのプログラム学生の混成グループによるディスカッションが行われます。今年度は、「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」の第6期生となる8名の皆さん、「マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム」の第5期生となる5名の皆さんを迎えました。今日は、プログラムの枠を越え、両プログラム間で大いに議論していただき、お互い切磋琢磨していただければと思います。

さて、2012年（平成24年）秋から始まった「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」は、開始から4年目となる平成27年度に中間評価が行われ、「計画通りの取り組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することができる」とのことで、A評価を頂くことができました。

また、2013年（平成25年）秋から始まった「マルチディメンジョン物質

理工学リーダー養成プログラム」では、平成28年度に同じく中間評価が行われ、「計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる」とのことで、S評価をいただきました。

このことは、本プログラムに事業担当者として参加している教職員の活動と、プログラムに参加している学生の皆さんの活動が高く評価されたことで、大変喜ばしく思っております。

現在、安全安心プログラム68名、物質プログラム61名の、計129名が学修に励んでおります。リーディングプログラム学生としての生活は、所属する研究科での学修に加えて、リーディングプログラムの学修や研修もこなす必要がありますので、ハードな毎日を過ごしていると思いますが、是非、今日の、プログラムを越えた新たな仲間とともに切磋琢磨し、能動的、主体的に学び合いながら、皆さん自身が思い描く将来のリーダーとしての“夢”を互いに共有し、実現していただきたいと思っております。

二つのリーディングプログラムは、本学が目指す「東北の復興・日本再生の先導」を実現するとともに、国際的に活躍できる指導的人材を育成するための非常に重要な事業であります。大学としてもこのリーディングプログラムの目的を実現するために、皆さんを引き続き支援して参りたいと考えています。

最後に、このリーディングプログラムにより、博士の学位を取得された皆さんが、将来、グローバルリーダーとして世界各地で場所を選ばず、

あらゆる局面で活躍し、日本ひいては世界が抱える課題を解決しかつ発展することに貢献できる人となることを願って、私の挨拶とさせていただきます。

2018年9月6日

東北大学学位プログラム推進機構長

副学長

山口 昌弘